

会 議 要 録

名 称	第 4 回 西予市中学校再編検討委員会	
事 務 局	教育委員会教育部教育総務課学校再編係	
	電 話 0894 - 62 - 6430	
	F A X 0894 - 62 - 6564	
開 催 日 時	令和 8 年 3 月 12 日 (木) 19 : 00 ~ 20 : 49	
開 催 場 所	西予市役所 5 階 大会議室	
出席者	委 員	20 名 (欠席 5 名)
	その他	
	事務局	教育部長 教育総務課 5 名 学校教育課 3 名 まなび推進課 2 名
議事内容(要旨)		
委員長	<p>進行：教育総務課長</p> <p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>西予市中学校再編検討委員会設置要綱（以下、要綱）第 6 条第 1 項により、進行（議長）は委員長。</p> <p>委員 20 人の方に出席であり、過半数以上の出席があることから、要綱第 6 条第 2 項により会議が成立することを報告する。</p> <p>（1）グループワーク・配布資料について</p>	
委員長	<p>グループワーク・配布資料についての説明を事務局に求める。</p>	

事務局	<p>グループワーク・配布資料についてについて説明する。</p> <p>(2) グループワーク</p> <p>【パート1】子どもたちへの願い</p> <p>○子どもたちに身に付けてほしいもの</p> <p>○どんな子どもに育ててほしいか など</p>
委員長	<p>今日のグループワークの進め方について事務局と意見交換を行った。</p> <p>まず、「いきなり学校再編をどうするかという話をしても難しいだろう」ということで、最初のパートでは、委員のみなさん自身が子どもたちにどう育ててほしいか、どんな力を身につけてほしいか といった思いを出し合う時間にしたい。</p> <p>その際、自分の学校時代の思い出や、印象に残っている先生の話など、エピソードを交えながら話してもらって構わない。</p> <p>パート1で出してもらった意見を受けて、パート2では、将来の子ども像を叶えるには、学校はどうあるべきか。中学校の規模はどれくらいが良いのか（学級人数・クラス数など）について話し合っていく予定である。</p> <p>パート1は自己紹介を含めてほしい15分ほどでお願いしたい。</p> <p>19時11分頃から始めるので、19時26分頃に声をかける予定。</p> <p>グループごとの話し合いが終わったら、それぞれ発表してもらい、私のほうでとりまとめをさせていただきます。</p> <p>(グループワークにより意見交換)</p>
委員長	<p>各グループで、話し合われたことを発表していただきたい。</p> <p>(各グループ発表)</p>
グループ①	<p>子どもたちに「たくましく、世の中を生き抜く力を身につけてほしい」という意見が大筋で一致した。</p> <p>そのためには、人間関係、つまり「人と関わる経験」がとても重要だという話が出た。</p> <p>いろいろな場面で仲間と関わり合い、切磋琢磨しながら学んでいく中で、必要な力が育つのではないか、という意見が共有された。</p>

<p>グループ②</p>	<p>また、最近の子どもは 自己肯定感が低く、自信が持てない傾向があるという指摘もあった。</p> <p>そうした状況を踏まえ、困難な場面にも逃げずに向き合える、困難に立ち向かう力 を身につけてほしいという意見が挙げられた。</p> <p>総じて、「たくましさ」「人との関わり」「自信」「困難への対応力」が、これからの子どもに必要な力として挙げられた。</p> <p>子どもたちには、地域とのつながりを大切にし、助け合う姿勢を身につけてほしいという意見が出た。</p> <p>きちんと挨拶ができる子どもであってほしいという声も挙げられた。</p> <p>また、何かトラブルや問題が起きたときに、自分たちで解決しようとする力を育てたい、そのためには互いを認め合いながら協力できる子どもであってほしい、という意見もあった。</p> <p>さらに、多くの人と出会う機会を通して、子ども自身の世界が広がっていくことが大切だという話も出た。</p> <p>最後に、自分の考えをきちんと発言できることが大事であるとの意見が挙げられた。</p>
<p>グループ③</p>	<p>学力はもちろん大切だが、それ以上に「人間力」をしっかり身につけてほしい、という意見が出た。</p> <p>具体的には、誰とでもコミュニケーションが取れる力、周りから好かれ、頼られるような人間性、自信を持ちながらも、柔軟に対応できる姿勢、みんなで協力しながら物事に取り組む力、生きる力、つまり社会の中でたくましくやっていける力といった点が挙げられた。</p> <p>また、地域を大切に思う郷土愛を育むことや、豊かな想像力をもってほしいという意見も共有された。</p>
<p>グループ④</p>	<p>人として基本的な言動がきちんとできる子に育ててほしい、という意見が多かった。</p> <p>例えば、ご飯を食べるときにしっかり「いただきます」と言える、といった基本的なマナーを身につけることを大切にしたいという声が出た。</p> <p>また、先ほどのグループ同様、人間力の高い児童生徒を育てる必要がある という考えが示された。</p> <p>そのためには、インターネット上の関係だけではなく、生身</p>

<p>委員長</p>	<p>【パート2】西予市における望ましい（理想の）教育環境は？ <ハード面> <ソフト面> <望ましい1学級の人数> <望ましい1学年の学級数></p> <p>先ほどの話し合いを踏まえて、これからパート2に進む。今の議論を一言でまとめると、皆さんが重視しているのは「人間関係を築く力」をどう育てるか、という点で一致していると考ええる。</p> <p>西予市の中では、そういった力を育むためにどんな教育環境が望ましいのかを考えていきたい。何人くらいの学級規模が適切なのか。学級数はどれくらいが良いのか。学校生活の送り方としてどんな条件が望ましいのか。といった点を含めて議論してほしい。配付されている「アンケート速報」も参考にしながら、これから約25分間、グループごとに話し合いを進めてほしい。</p> <p>(グループワークにより意見交換)</p>
<p>委員長</p>	<p>各グループで、話し合われたことを発表していただきたい。</p> <p>(各グループ発表)</p>
<p>グループ①</p>	<p>議論があちこちに広がりながらも、主に次のような点について意見が出た。</p> <p>まず、ハード面については、統合する場合、スクールバスの運行体制をしっかりと整えてほしいという声があった。通学時間の長さも含めて検討が必要ではないかという意見もあった。寮をどうするかという点も話題になった。寮は良い面もあるが、必ずしも全員にとって最適ではないのでは、という意見も含めて様々だった。</p> <p>統合は1校にまとめるのではなく、2校に分けた方が良いのではないかという案も出た。</p> <p>次にソフト面（教育の質など）については、教員数は多い方が良いという意見が共有された。教員に余裕があれば子どもへの関わりも細やかになり、結果として良い教育につながるという考えである。</p> <p>1学級の人数については、学校側の経験として25人程度が望ましいのではないか、という話があった。少人数の方が学</p>

<p>グループ①</p>	<p>力は伸ばしやすい側面もある。しかし人数が少なすぎると意見の多様性に触れにくくなる。</p> <p>また、教員に余裕がないと小規模校では負担が偏りやすい、という指摘もあった。</p> <p>学級数（1学年のクラス数）については複数学級が望ましいという意見が多かった。理由としては、同じ教科を担当する教員同士で協力や相談ができる。子どもも違うクラスの友達と関わられる。といった点が挙げられた。1学年1学級の学校にも良さはあるが、教員配置面から見ると、ある程度規模があった方が良いという話も出た。</p>
<p>グループ②</p>	<p>・リモートを使って海外の人とお互いの地域を紹介し合う授業ができると良いのでは、という意見があった。それによって、子どもたちが自分の地域について学び、発信する機会になる。</p> <p>西予市には山・海・カルストなど紹介できる魅力が多い、海外の相手がいるなら英語の授業としても活用できるといった利点が挙げられた。</p> <p>・海外と直接接する機会がほとんどないため、子どもたちはどうしても萎縮しがちだが、リモートでの交流を経験することで緊張もやわらぎ、話すハードルが下がるのではないかという意見もあった。</p> <p>教室の環境については、フリースペース型ではなく、部屋を区切り、教室として明確に分けた方が良いという意見があった。理由としては、子どもが別のスペースへふらっと移動しすぎるのを防げる。他のクラスの活動を見に行くなど、クラス間の交流がしやすい。クラスマッチなどでクラスとしての団結力が生まれやすいといった点が挙げられた。</p> <p>学級数については、個人的な経験をもとに、1～3年生の学級数はそろえてほしいという意見が出た。過去の例として、3年生だけ5クラス、1・2年生は4クラス。体育祭の際に差が生じ、生徒間でトラブルが起こったことが紹介された。こうした不公平感や混乱を避けるためにも、各学年の学級数をそろえる方が望ましいとの意見であった。</p>
<p>グループ③</p>	<p>ハード面については、基本的なことではあるが、安全が確保されている環境が大事という意見があった。その点では、現在の学校は、耐震化は既にできている。全教室に空調が整備されている。といった点で、一定の環境は整っていると感じているという声があった。また、支援が必要な生徒が増えている中</p>

<p>グループ③</p>	<p>で、別室対応ができる環境が整っていること、また今後も整えてほしいという要望も出た。</p> <p>ソフト面については、特別支援に関するサポート体制の充実が必要という意見が多かった。特に、「生活支援員が廃止されている現状がある」という指摘があり、特別支援・生活支援体制をもう一度強化してほしいという声が出た。</p> <p>望ましい1学級の人数については、1学級の人数は25～30人程度が良いのではないかという意見でまとまった。理由としては、ある程度人数がいる方が、子ども同士で切磋琢磨できる。多様な意見に触れられるといった点が挙げられた。</p> <p>クラス数については、2クラス以上あった方が良いという意見が多数だった。1学年1クラスしかない、人間関係が固定されやすく、しんどさが出る場合があるという指摘があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数学級があることで、人間関係のリセットが可能。トラブルが起きても別クラスという選択肢があるなど、子どもにとって解決の幅が広がるというメリットが語られた。
<p>グループ④</p>	<p>ハード面については、宇和中学校が統合校になった場合を想定した話として、雨天時の送迎で校舎周辺が渋滞する可能性が指摘され、交通動線の配慮が必要だという意見が出た。また、図書の実態については、学校規模によって大きく差が出るため、図書室の実態をぜひ図ってほしいという声があった。</p> <p>ソフト面については、人間力を育むというテーマから、部活動の実態が大切ではないかという意見があった。子どもたちが人との関わり方を学んだり、協働する力を育む場として部活動の環境整備を求める声があった。</p> <p>小規模校・大規模校それぞれの良さについて話し合われた。</p> <p>小規模校の良さ：役割が回りやすく、子ども一人ひとりに活躍の場が与えやすい。</p> <p>大規模校の良さ：人数が多いことで人間関係が豊かになり、多様な人と関わる経験が得られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうした双方のメリットを踏まえて、学級数のあり方を考えていく必要があるという認識が共有された。
<p>委員長</p>	<p>まず、ハード面は、子どもが安心・安全に過ごせる環境が前提とした上で、安全面・設備面の確保が何より大事。図書室の実態には、読書環境は文字や表現力の育成に直結する。</p> <p>読書というのは他者との直接的な対話ではないが、“筆者との対話（資料との対話）”という形の学びでもあり、近年非常</p>

委員長

に注目されている。そのため、図書室や本屋といった空間は、子どもの読解力育成にとって重要な教育環境である。

ソフト面については、ICT環境の整備により、海外や他地域の子どもたちと交流する授業が可能になっている。多様な他者との対話機会をどう作るかが重要である。また、部活動の充実については、現代社会において“縦の関係”や“礼儀”を学ぶ機会が減っており、特にZ世代は、対立や摩擦を避ける傾向がある。目上の人との接し方を学ぶ機会が少ないといった現状があり、社会に出て困る場面も増えている。こうした状況の中で、異なる世代と関係を築く力を育てる場として、学校教育や部活動の役割は大きい。

望ましい1学級の人数については、皆さんの発表から総じて、25～30人程度が望ましいのではないかという意見が多かったと整理する。理由としては、多様な意見に触れられる環境であること、互いの意見を聞き合う場をつくりやすいことが挙げられた。

1学年の適切な学級数については、皆さんの意見として、複数学級があった方がよいという方向性が見られたと整理する。理由としては、人間関係が固定されすぎない。子どもが多様な関係性の中で成長できるといった利点を確認された。

今は本当にグローバル化がどんどん進んでいる。自身、以前神戸の公立中学校で8年間教員を務め、そのうち5年間はフィリピン国籍の生徒がクラスに在籍していた。その生徒は、ほとんど日本語が話せなかったが、社会科などの授業には普通に参加しており、テストではローマ字で回答してもらうなど、学校側で工夫しながら対応していた。当時はICTの支援が十分ではなかったが、現在はGIGAスクール端末の翻訳機能やスライドの自動翻訳など、多様な言語背景の子どもをサポートできる環境が整ってきている。

子どもたちは、これから本当にいろいろな価値観や文化を持つ人と関わることになる。だから、学校の中でも“多様な人と出会う場”を意識的につくっていく必要がある。多様な立場や考え方を理解したり、対話したりできる力がないと、これからのグローバル社会には立ち向かえない。ここは学校として共通認識を持っておくことが大事だと考える。

中学校教員として初任者研修を受けていた際、担当指導主事から「子どもにとって、最大の環境は何だと思いますか？」と問いかけがあった。答えは「教師」であった。子どもがどんな先生と出会うか。それが教育にとってものすごく大事になる。

委員長	<p>子どもたちが“素敵な先生に出会える機会”をどうやって保証するか。これは教育環境を考える上で欠かせない視点だと考える。</p> <p>そして、やっぱり、素敵な友だちに出会える場がある、というのがすごく大事だと考える。先生に叱られてシュンとしている子でも、複数の友だちがいれば“ニキニキッ”と元気を取り戻す、そういう姿もある。どんな友だちと出会うか、その機会をどう保証するかも、教育環境を考えるうえで欠かせない視点だと考える。</p> <p>【パート3】中学校再編の必要性</p>
委員長	<p>言わずもがなですが、子どもたちを取り巻く環境は本当に大きく変化している。パート1では、「子どもたちにどんな力を育みたいか」「どんな大人になってほしいか」について話し合った。</p> <p>パート2では、その力を育むための教育環境について意見を交換した。</p> <p>パート3では、それらの議論を踏まえて西予市の中学校再編の“必要性”という観点から、皆さんに議論していただきたい。</p> <p>(グループワークにより意見交換)</p>
委員長	<p>各グループで、話し合われたことを発表していただきたい。</p> <p>(各グループ発表)</p>
グループ①	<p>再編の必要性について、まず「そもそも本当に再編の必要性を話し合う必要があるのか」という意見も出たが、再編を進めるのであれば、アンケート結果を踏まえて、どんなニーズがあって再編が必要だと考えられているのか、その点から議論を始めるべきだという意見があった。</p> <p>特にアンケートでは「人数が減ってきている」という指摘が多く、そこが再編の理由として大きいのではないか、という見方が示された。</p> <p>その上で、「必要だから再編する」という前提に立つなら、ではどのように再編するのが適切かを議論していくべきだという意見が出た。</p>

	<p>また、教育環境も重視すべきという声があり、例えばスクールバス通学の時間が長くなることへの懸念や、必要最低限の教育環境が確保できるのであれば、まずは学校を2つにするなどの選択肢もあり得るのではないかと、という考えも示された。</p> <p>さらに、短期だけでなく長期的な視点でも、将来的にどんな再編が必要になるのかを考える必要があるのではないかと、という意見もあった。</p> <p>まとめると、「良い教育環境を確保する」という視点を持ちながら再編を進め、そのためにどこを重点的に検討すべきなのか、ある程度指針を示した上で、具体的な議論を行うべきだというのが主な意見であった。</p>
グループ②	<p>再編については、最終的には1校にすべきではないかという意見が多かった。</p> <p>まずは当面「2校体制」を維持するにしても、数年後には生徒数の減少やクラス数の縮小を考えると、最終的には1校にまとめる方向で考えるべきではないか、という声があった。</p> <p>一方で、距離の問題も指摘された。</p> <p>特に城川地区などからは学校までの距離が長くなりすぎ、通学時間が過度にかかるのではないかと懸念が出された。そのため、もし1校にするのであれば、通学負担を軽減するための宿舍の整備が必要ではないかという意見もあった。</p> <p>また、1校化に伴う「地域のつながりの希薄化」を心配する声もあったが、生徒数の推移を見据えると、長期的には1校化を前提に考える必要があるのではないかと、という意見が多かった。</p>
グループ③	<p>再編の必要性については、今日の一連のワークを通して、子どもたちの教育環境を考えると再編は必要であり、やむを得ないのではないかと、という意見があった。</p> <p>一方で、実際に再編を進めるとなると、地域への影響を考えると迷いが生じるということも正直なところではないか、という声もあった。ただし、再編を行うのであれば、「なぜ再編が必要なのか」「子どもたちのためにどのような意義があるのか」といった点について、しっかり説明していく責任があるという意見が出た。</p> <p>単に「子どもが少なくなるから再編する」のではなく、子どもたちの学びや成長のために再編が必要であることを、地域に丁寧に伝えていく必要があるという考えが示された。</p>

グループ④	<p>中学校の再編の必要性については、今回の議論では特に深くは話し合われなかった。ただし、生徒数が大きく減少しており、今後増える見込みもない現状を踏まえると、再編はやむを得ないのではないかという意見が出た。</p> <p>また、「2校体制にするのか、1校にするのか」という点については、参加者の中でも意見が分かれた。</p> <p>「1校にすべきだ」という意見がある一方で、議論には明確に表れていないものの、2校維持という考え方も一定数あるのではないかという雰囲気もあり、どちらかに意見がまとまる状況ではなかった。</p>
委員長	<p>議論の中で重要な論点として挙げたのは、「そもそもなぜ再編が必要なのか」という点である。パート1、パート2で出された意見を踏まえると、再編は「適切な教育環境をつくるため」に検討されているという認識が共有されていた。</p> <p>では、その“適切な教育環境”とは何かという点については、多様な他者との出会いや、多様な学びを保障できることが重要であり、その観点から再編を前向きに検討する必要があるのではないか、という意見があった。</p> <p>一方で、再編に伴う課題として、登下校の負担、地域とのつながりの希薄化といった懸念も示された。こうした心配はあるものの、総じてみれば、参加者の多くが再編の必要性そのものは感じている、というのが本日のまとめとして言えるのではないかと。</p> <p>本日の議論を受けて、検討委員の多くが、学校再編の必要性を感じているという点が今日の話し合いで確認できた。次回以降のグループワークや委員会では、その前提で検討を進めていく。</p> <p>また、今回いただいた意見や、本日の議論のまとめについては、最終的な答申に反映していく予定である。引き続き協力をお願いしたい。</p>
委員長	<p>(3) その他について</p> <p>その他について事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>その他（次回開催予定）について説明する。</p>

